

今日のみことば

□ 7月30日(日) 創世記 18章

アブラハムに三人の来客があった。その内の一人は主であった。主は二人に約束の子が与えられる伝えたが、最初彼らは信じなかった。それから二人は、ロトの家の方へ行った。

□ 7月31日(月) 創世記 19章

二人のみ使いは、滅ぼされるソドムの町からロトの一家を救うためにロトの家に行った。ソドムが滅ぼされようとするときロトはみ使いに促されて町を出た。

□ 8月1日(火) 創世記 20章

アブラハムはゲラルで以前と同じ失敗を繰り返した。人間にはどこかに弱さがある。気をつけなければなりません。ここには神を見ず人を見て恐れ、失敗した預言者の姿を見る。

□ 8月2日(水) 創世記 21章

神の約束から25年目、アブラハムの家庭に約束の世嗣イサクが生まれた。なぜ長く待たねばならなかったか。何事も神の約束を得るために必要なのは忍耐である。

□ 8月3日(木) 創世記 22章

アブラハムの生涯のクライマックスは、彼でなければ受けられないような大きな試練です。独り子イサクをいけにえとささげよと。彼はそれに従順に従った。

□ 8月4日(金) 創世記 23章

愛妻サラの死は、アブラハムにとって悲しみであった。アブラハムとイサクは共に悲しみ、エフロンより土地を買って葬った。

□ 8月5日(土) 創世記 24章

イサクの結婚は神に関する重大事である。老家令は命を受け祈りをもって嫁探しに出る。祈りは答えられ老家令はリベカに会う。彼はそこで主を讃美し、主を拝し、主に感謝する。

ろ ぼ No. 1826

2017年 7月30日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

マタイ27:46

三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

イエスがつけられた十字架の下では、「そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって、言った。『神殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろそして十字架から降りて来い』同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言った。『他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ

イエスの十字架は、私たちの人生にしっかりとその後を残しています。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれたイエスの言葉は私たちの心に鮮明に刻みつけられています。

放送伝道者の羽鳥先生が、ある女子大学で講演を頼まれたときにどんな話をしたらよいのですかと尋ねたところ、学生会長がわざわざ学生からアンケートを採ってくれました。その結果、いちばん人気があったテーマは、人生と幸福、人生と愛、人生と自由、人生と死などと共に「人生と孤独」でした。二泊三日の講演の間、それとなく女子大生を見ていると、友だちとグループを作り、よくしゃべり、けっこう楽しそうにしてるように見えました。「それなのに彼女たちの心にある問題は、人生の孤独だったのです」と語られました。イエスの十字架上の叫びを聞かせていただくとき、ヨブの悲痛な祈りを思い起こさせていただく時、様々なことを思い巡らさせられるのでした。

十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。』」と(マタイ27:39-42) 言いつのる声が聞こえます。その声を聞きながらイエスは、十字架の肉体の苦痛を耐えておいででした。だれ一人としてそれを担ってくれる者はいない。それが私たち人間だと思わせられるのでした。私たちはいやと言うほどその体験をさせられなければ、自分を知ることが出来ないのです。

最初の人々が、神に罪を犯したときの光景を思い起こしています。神の言葉を裏切ったのは、この自分です。けれども彼らはその原因を他に転化しました。自分一人でそれを負うのがいやだったからです。みんなでそれを負うことにしたのです。自分のことをだれ一人心に留めてくれる者はいないと、知ったとき私たちはどんな気持ちになるかお分かりでしょう。私はイエスが「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれた言葉を、私はほんとうにその苦痛をしっかりと受け止めさせていただくのです

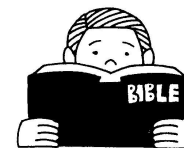
神の御子イエスにそのようなことは起こり得ない、と言われてますか。主イエスは、人として私たちの世界においでになった方です。「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪は犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです」(ヘブル4:15)と言われるのです。この主イエスは、私たち自身ではありませんか。「罪の支払う報酬は死である」(ロマ6:23)と告げられます。しかし私たちはひとりではないのです。「しかし、神の賜物は、わたしたちの主イエス・キリストによる永遠のいのちなのです」(ロマ6:23)とされます。神はイエスをひとりでは置かれませんでした。三日目にイエスは墓からよみがえられました。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
ヘブル7:20-28 生けるキリスト

メルキゼデクはレビ的祭司ではなく、これより600年も昔の人物で、レビ的祭司よりも偉大で、アブラハムよりもはるかに偉大な祭司であった。イエスはメルキゼデクの地位にならった祭司なるキリストである。

レビ的祭司は年ごとに犠牲をささげたが、キリストは一度死なれたのである。彼らの犠牲は役に立たなかった。キリストによる犠牲は、永遠に罪を取り除いた。キリストは生き続け、永遠の契約の仲保者、永遠のいのちです。

アロンも祭司も死に、大祭司も死んだ。しかし永遠の大祭司でいますキリストは、死ぬことがなく、アロンの子孫の大祭司よりはるかにまさったお方です。私たちが罪から贖うためにご自身をささげられました。キリストは大祭司として「いつも生きていて」神の御前で「とりなし」をしていて下さるのです。



Read God's Word.